

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)トヨタ自動車未来創生センター	階数	地上3階
建設地	愛知県豊田市岩倉町一本松1-1番地	構造	RC造
用途地域	用途地域指定なし(都市計画区域内 市街化調整区域)	平均居住人員	500人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年3月 予定	評価の実施日	2026年2月26日
敷地面積	96,583 m <sup>2</sup>	作成者	鳥居 滯
建築面積	18,134 m <sup>2</sup>	確認日	2026年2月26日
延床面積	26,507 m <sup>2</sup>	確認者	矢野雅規



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 67%

③上記+②以外の 67%

④上記+ 67%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.7

**LR のスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>5.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>33.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>29.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>2.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>木ルーバー 愛知県産材天然木</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (仮称)トヨタ自動車未来創生センター

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>											
<b>Q1 室内環境</b>											
<b>1 音環境</b>											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
<b>2 温熱環境</b>											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
<b>3 光・視環境</b>											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
<b>4 空気質環境</b>											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO <sub>2</sub> の監視											
2 喫煙の制御											
<b>Q2 サービス性能</b>											
<b>1 機能性</b>											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
<b>2 耐用性・信頼性</b>											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											



**重点項目スコアシート**

(仮称)トヨタ自動車未来創生センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>5.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	5.0	0.09	外構緑化:33%/建物緑化:29%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>2.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	木ルーバー 愛知県産材天然木

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)トヨタ自動車未来創生センター

計画上の配慮事項	
総合	<p>大地再生をめざし、研究者にも地域にも開かれた「里山型研究拠点」。未来を考え続ける場にふさわしい、自然と人の営みの共生をめざした、未来創生らしい価値創造・研究の場とします。</p>
Q1 室内環境	<p>昼光利用設備が2種類以上あり、居住域の上下温度差や気流速度が少なくなるように配慮された空調方式が採用している。</p>
Q2 サービス性能	<p>井水・中水の利用、非常用発電設備の備えが計画されており、災害などの停電時のBCP対策がされている。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>地域建材の使用や、既存自然環境の保全、復元、再生し、景観的に地域の歴史性を継承している。</p>
LR1 エネルギー	<p>自然通風、自然換気システム・地熱利用システムが計画されており、自然エネルギーを積極的に活用している。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>既存の建築躯体を利用しており、仕上げ材に自然素材を用いている。</p>
LR3 敷地外環境	<p>駐車場、駐輪場の適切な量を確保し、地域の方にも開いた研究施設としている。</p>
その他	<p>解体資材の砕石を屋根や外装、内装に用いることで、廃棄物の減量化・資源化に取り組んでいる。既存管内サインを用いたテーブルや、既存ウォータースライダーを利用した什器、既存木を利用した什器・壁などの多数のアップサイクルを実施。</p> <p>かつての人工造成地の地質環境を改善し、棚田状の景観を形成する。「トヨタの森」の自然体験活動を基盤に、誰もが自然と関わる機会を提供し、訪れる人々が自然と触れ合い、共生の知恵を学べる場を創出する。</p>